

介護サービス業



(株)3eee本社にて

介護事業者向けクラウドサービスを活用し介護保険請求や報告書作成業務の改善、全国に事業を展開！！

株式会社3eee (旧 株式会社ヒューマンリンク)

- 本 社：札幌市中央区北2条西3丁目1-8
- 代 表 者：代表取締役 田中 紀雄
- 創 業：平成22年8月
- 従業員数：281名 (平成30年5月時点)
- 事業内容：通所介護事業、地域密着型通所介護事業、
スクール事業、障がい児通所支援、
共同生活援助、居宅介護支援事業ほか
- U R L：<http://www.3eee.co.jp/>



介護・在宅医療、障がい福祉事業を展開する(株)3eeeは、ソーシャルベンチャー企業として平成22年に創業、以来リハビリ特化型デイサービス「カラダラボ」を主軸に高齢者の自立生活実現に向けたサービスを展開。令和元年8月時点で、全国に157事業

所、14業態を展開している。

同社は「在宅最後の砦になる」をスローガンに掲げ、在宅生活支援を総合的に進め、未来の街づくりそのものを支えるという構想「まちつくミライ」を推進している。

ビジネス上の「課題」

- ・介護現場に書類が多い
- ・介護保険請求や報告書の作成に時間がかかる
- ・転記ミスが多い

書類作成時間の改善、紙管理ゼロ（ICT化）の実現へ

業務効率化が必要、課題はICT化とデータ活用！！

介護現場には、業務日誌、介護記録、食事摂取状況、バイタルデータ（血圧・脈拍・体温、血中酸素濃度など）、連絡帳など書類が多い。これまで、ケアマネジャーは利用者が帰った後（17時以降）に手書きで介護記録を作成しており、作業に毎日1時間程度費やしていた。また、バイタルデータを転記する際に記載ミスが

多いことも課題であった。

同社は創業当時、ITの利用は保険請求ソフトだけであったが、介護保険に関わる法改正に伴い必要な書類が増え、請求ソフトだけでは対応できなくなった。最適なサービスを提供するには、業務の効率化とデータ共有が必要と考えICT化に取り組んだ。

<採用したITツール>

介護現場でのタブレット使用例

1. 介護業務にICTを導入

クラウド型介護ソフト「カイボケ」

介護事業者の業務の効率化や働き方改革をサポートするクラウドサービスで、間接業務を削減する業務支援機能、勤怠・給与・労務・会計等の運営支援機能を提供する

カイボケはクラウドサービスなので、社外からも利用可能である。同社は、カイボケの導入を機に従来のパソコンでの作業をタブレットに変更。現場に携帯できるようになり、ケアマネジャーは仕事の合間の時間を使ってその場で介護記録を作成できるようになった。

- ①業務日誌作成
- ②プログラム登録・介護記録
- ③食事量・水分量管理
- ④バイタルデータ管理
- ⑤連絡帳(入出力)



2. コミュニケーションツールを導入

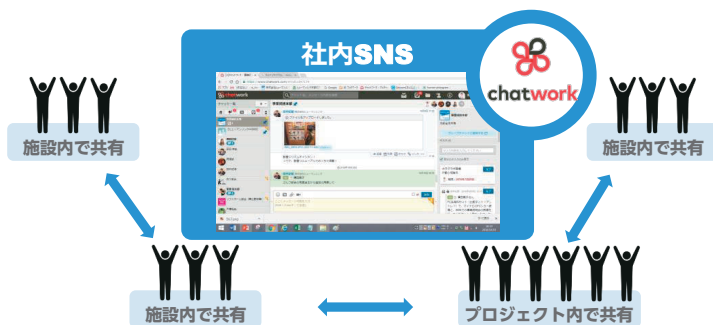
ビジネスチャットツール「Chatwork」

ビジネス版のチャットワークで、メッセージ機能のほかタスク管理やファイル共有、ビデオ通話などが可能

カイポケの導入に続き、平成 28 年 8 月に iPad とあわせて導入。Chatwork の利用で、どこにいても情報が共有でき、インシデントなどの緊急連絡をスマートフォンへ瞬時に届けられる。現在、職員の利用率は 100% である。

また、Chatwork のシステム上に定期的に研修用のストーリーミング動画を配信し、それを全国の事業所で視聴することで人材育成にも活用している。

**社内・施設内・施設間・プロジェクト間の情報共有
緊急時対応がスマートフォンで瞬時に！全国どこにいても！**



ビジネス上の「効果」

- ・介護記録作成時間を削減
- ・社内外で情報共有
- ・意思伝達のスピード化

**1 事業所あたり平均年間226
時間の業務時間を削減、
全国どこでも情報共有！！**

成功事例や失敗事例を共有し、他の現場でも即実践！！

カイポケ導入前は介護記録作成のため残業が常態化していたが、導入後はちょっとした作業の合間にタブレットで入力できるようになり、1 事業所あたり平均年間226時間の業務時間・残業代約35万円相当を削減した。

また、iPadは音声アシスタント機能「Siri」が使える、話しかければ文字に変換できるので、入力作業の効率化にもつながった。

カイポケやChatworkなどのクラウドサービスでは、クラウド上にデータが残るので、全国の事業所やケアマネジャー間で、介護記録のみならず、成功事例（成功のポイント）や失敗事例（失敗時のアドバイス）などの情報共有も可能となった。

さらに、緊急時の連絡が全国どこにいても届き、すぐに対応できるようになった。

介護記録時間の改善状況（各事業所の平均）

項目	概要	所要時間		改善時間
		ビフォー	アフター	
業務日誌作成	日々の利用者、配置職員数、具体的なサービス内容等記録	10分	2分	8分
プログラム登録・介護記録	個別のプログラム作成、提供した内容と振り返り等を記録	30分	10分	20分
食事量・水分管理	日常生活の中での栄養摂取及び食事摂取状況を管理	30分	10分	20分
バイタルデータ管理	血圧・脈拍・体温・血中酸素濃度を管理	30分	10分	20分
連絡帳（入出力）	通所前・通所時・通所後の体調や効果をヒアリングし記録	20分	10分	10分

**成功事例・失敗事例をリアルタイムで共有し、
全国各地の現場で即実践！**



導入企業の声

最初は請求ソフトだけで対応できたのですが、法改正に伴い介護現場、特にデイサービスで書類が増えたので、カイポケを利用するようになりました。手書きの時は、1日に1時間かけて書類を作成していました。

カイポケは直営の事業所全てで利用しています。ケアマネジャーにはタブレットを外に持ち出して利用してもらっていますが、従来の紙媒体や端末に情報が残る機器と違い、個人情報の取り扱いも安心です。また、カイポケを利用すると残業時間が削減できます。

なお、年々採用が厳しくなっていますが、カイポケに求人サイトがあるので、当社ではそのサービスを利用しています。（戸澤拓哉スーパーバイザー）



ITコーディネータから一言

平成22年の創業当時12名であった同社は、平成30年に281名へと急激に事業を拡大してきました。そうした事業の拡大に対応するにはICT化は必須であったと言えます。近年、さまざまなクラウドサービスが提供されていますが、自社に合ったクラウドサービスを活用することで業務効率改善だけでなく、組織の活性化を実現した良い事例だと思います。